

みさき自然公園

ポケット図鑑《鳥》



カイツブリ (年中)

新川で浮き巣をつくって子育て中



カルガモ (年中)

いつも連れだつてなかよく歩くカルガモ一家。新川上流のヨシ原をめざしてけんめいに泳ぐ



オオバン (年中)

バンに似るがくちばしから額にかけて白い。足指にはひれがあり、もぐることも得意。



バン (年中)

黒いからだに赤と黄色のくちばし、赤い額。水かきはないが緑色の足で泳ぐことはできる



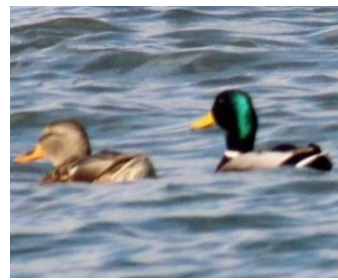
カンムリカイツブリ (年中)

冬のびわ湖にスラリと白い首を伸ばしている。夏には黒い冠羽とほおに赤い飾り羽をつける。



キンクロハジロ (冬)

後頭部に黒く長い冠羽があり目は金色、からだは黒、羽は白で名前が「キンクロハジロ」。



マガモ (冬)

オスは首から頭は緑色、くちばしが黄色く首に白い輪がある。メスはからだ全体が褐色。



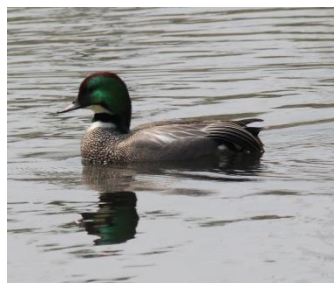
トガモ (冬)

みさきには一番早く渡ってくる最も小さいカモ。オスは赤茶色の顔で目から後ろに緑色の帯



ハシビロガモ (冬)

十数羽が円を描くようにぐるぐる回り、広く大きくくちばしでプランクトンを集めて食べる。



ヨシガモ (冬)

赤紫色と光沢ある緑色の頭が美しい。尾の飾り羽が蓑のように長く垂れ、別名「みのガモ」



ホシハジロ (冬)

ワインレッドの頭と首、体は灰色。目は赤く胸とお尻が黒い。淡水を好み琵琶湖に多く来る。



クリカモメ (冬)

冬の湖上に群れる白い姿はクリカモメ。5 月には覆面をしたような黒い顔に変身して北へ帰る



オカヨシガモ (冬)

もっとも地味な感じのカモで、おしりの黒い三角形が特徴。みさきには頻りに姿をみせる。



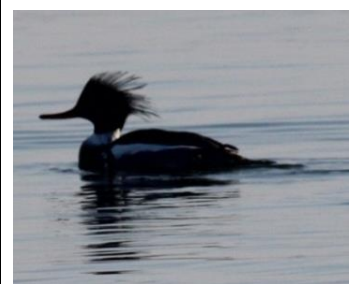
ヒドリガモ (冬) ⇒⇒⇒

オスは頭から首にかけて赤褐色、額から頭頂まで黄色い帯がある。春まで留まり・・・



⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ (春先) 北へ

春にはムラサキサギゴケの咲く広場で群れになって青草をついばみ、やがて北へ飛び立つ。



ウミアイサ (冬)

オスの頭部は緑色光沢のある黒色で、頭頂から後頭部にかけての長い冠羽はバサバサ頭



オオヨシキリ (夏)

口を大きくあけると真っ赤なのが見える。ギョギョシケケシと高らかになわばりを宣言する。



アオサギ (年中)

水辺に静かに立って、じっと何かをみつめる姿がよく見られる。ねらいは……



カワセミ (年中)

このカワセミが新川になわばりを張っている。魚にねらいをつけて水中に飛び込む。



セキレイ (秋～春)

セグロセキレイは黒い顔に白いマユ、ハクセキレイは白い顔に黒い過眼線。トコトコと歩く



キジ♂ キジ♀ (年中)

雄は自分をきれいに飾り、ヒナを連れだした雌は敵に気づくとケガを装って自分に引き付ける



ムクドリ (年中)

田んぼや草原で虫やミミズをついばんでいた群れが、日暮れ前、一斉にヨシ原へ帰る。



ヒヨドリ (年中)

ピーヨと鳴くので「ヒヨドリ」。羽を閉じて波形にとが。灰色ボサボサ頭に茶褐色のほお



ホオジロ (年中)

鳴き声が「一筆啓上つかまつり候」「源平つつじ白つつじ」と聞きなされることになじみ深い。



アカゲラ (年中)

木の幹にたてにとまり、穴を掘って巣をつくる。普通に言うキツツキとはこのアカゲラのこと



コゲラ (年中)

「ギーツ」と鳴く。キツツキの仲間は木を嘴でたたく「ドラミング」でなわばりを主張する。



モズ (年中)

長い尾をピコンピコンとよく振るモズは鳴きまね上手で百舌と書く。右はモズのハヤニエ



カワラビロ (年中)

スズメによく似ていて、どこでも普通にみられる。飛ぶと翼に太い黄色の帯が目立つ。



ツグミ (冬)

常に胸を張って堂々たるポーズで、数歩進んでは立ち止まり、また進むという動作をくり返す。



ショウビタキ (冬)

翼に三角形の白い斑(模様)が特徴。「紋付」とよばれる。オスの羽は黒く、胸は濃い橙色。



シジュウカラ (冬)

黄緑の背に、のどから腹にかけての黒い帯がネクタイのよう。ツツピーと明るくさえずる。



カワウと白鷺とカメとオオバン

新川河口で一堂に会する

みさき自然公園とその周辺で見られる鳥たち(参考:守山の野鳥ガイドブック) 美崎公園パークセンター

守山市今浜町十軒家 2870-2 ☎077(585)4280